

平成24年度 公共事業事後評価調査

1. 事業説明シート(1)

(区分) (国補)・県単

事業名	治水事業〔基幹河川改修事業(国補)〕	事業箇所	甲州市塩山三日市場～山梨市牧丘町集	地区名	笛吹川	事業主体	山梨県
(1)事業着手年度	S51年度	(2)事業期間	S51年度～H19年度	(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	1,679百万円
(5)事業着手時点の課題・背景				(8)事業位置図等			
<p>笛吹川は、山梨市北部を源とし、広瀬ダムを経て山梨市と甲州市との市境を流下し、甲府盆地に出たのち、南巨摩郡富士川町で富士川(釜無川)に合流する流路延長54.2km、流域面積1,045km<sup>2</sup>の一級河川である。</p> <p>笛吹川石和町付近から下流は流れが比較的緩やかであるが、上流は急流で、河床変動や河岸の侵食が激しい河川である。</p> <p>本事業は、昭和50年に完成した広瀬ダムの計画流量を安全に流下させるため、概ね80年に1回の確率で発生する規模の洪水を考慮した河道拡幅及び河岸侵食の防止等を目的として、昭和51年度から国土交通省甲府河川国道管理境界である岩手橋から上流かじめん橋までの延長約2.90km区間の整備に着手した。</p>							
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果							
(事前評価未実施)							
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・洪水被害の防止							
<input type="checkbox"/> 副次目標 ・なし							
<input type="checkbox"/> 副次効果 ・なし							
(7)整備内容(目標達成の方法)							
・河岸侵食の防止、流下能力の向上 (第1期) 昭和51年度～昭和63年度 貴明橋上下流における、河道拡幅を行った。 (第2期) 平成元年度～平成11年度 新集橋上下流において、河道拡幅を行った。 (第3期) 平成12年度～平成19年度 鍛冶屋橋からかじめん橋までの区間において、橋梁架け替え、河道拡幅を行った。							
改修延長 L=2,900m 築堤 L=1,230m 護岸工 L=2,270m 根固工 1式 橋梁1橋							
流下能力 600m <sup>3</sup> /s → 1,400m <sup>3</sup> /s 治水安全度1/10 → 1/80							

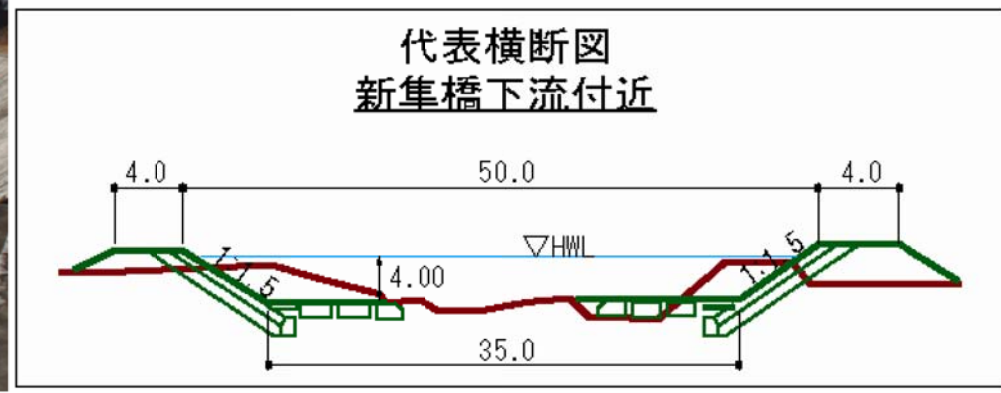
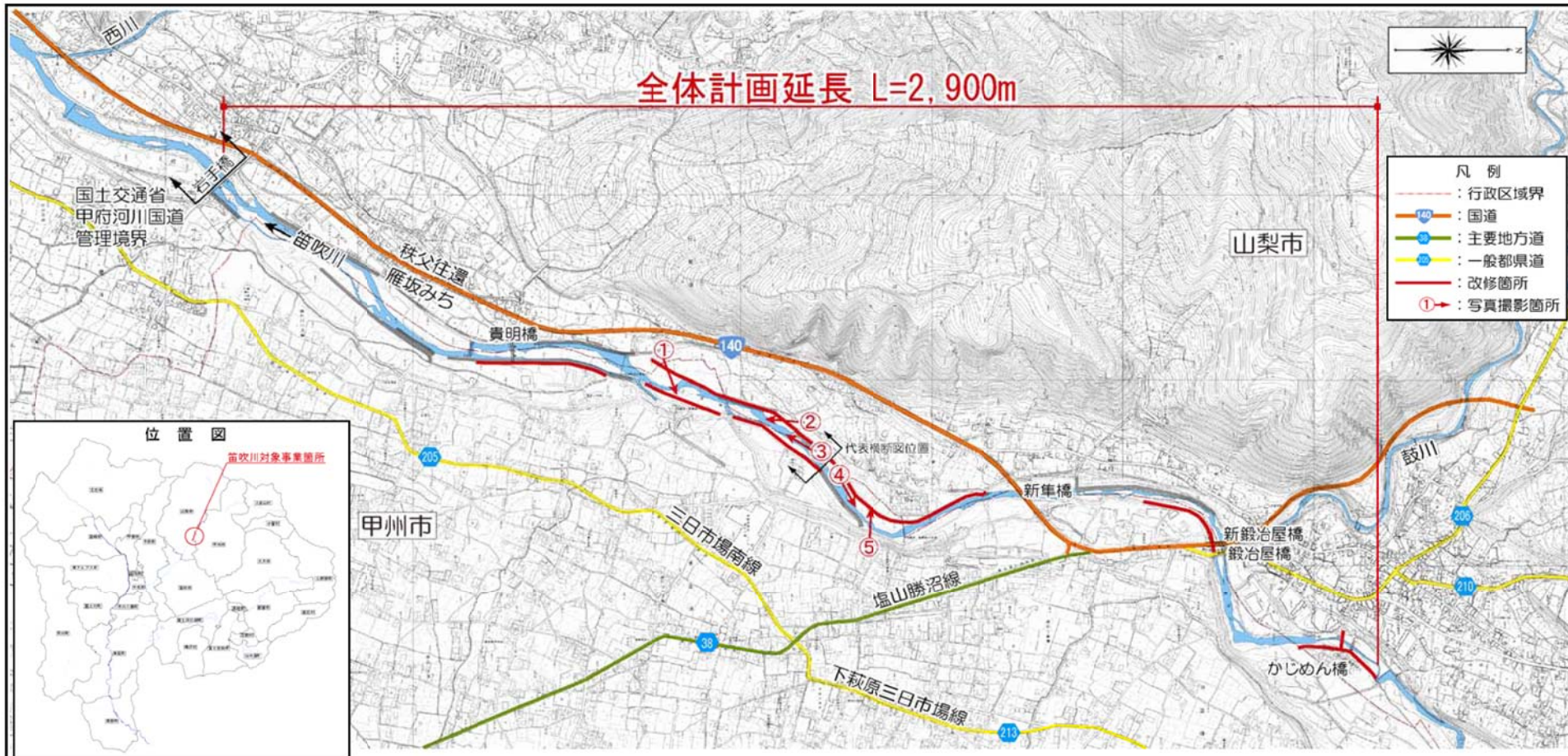
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 <span style="float:right;">〈 (良) ・ 不良 〉</span></p> <p>(理由)          当初計画どおり、確率規模1/80での河道改修が実施され、計画流量を安全に流下させることが可能となり、主要目標である洪水被害の防止に貢献した。          なお、平成12年9月12日の降雨（甲府气象台：2日雨量：311mm（確率規模 約1/40）、時間最大雨量24mm（確率規模 約1/2））では、安全に流下している。</p> <p>①主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">指 標</th> <th style="width:40%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>危険度</td> <td>16点→設定せず ※</td> <td>8点</td> </tr> <tr> <td>想定氾濫区域1haあたり被害軽減額</td> <td>75百万円→設定せず ※</td> <td>431百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>危険度については、16点から8点に減少している。          1haあたり被害軽減額は、着手時点の75百万円を上回る431百万円となっている。</p> <p>②副次目標          ・なし</p> <p>③副次効果          ・なし</p> <p>④その他の事業効果の発現状況          ・なし</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	危険度	16点→設定せず ※	8点	想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	75百万円→設定せず ※	431百万円	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 <span style="float:right;">〈 (有) ・ 無 〉</span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,524百万円</td> <td>1,679百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>S51～H17</td> <td>S51～H19</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>3,901百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>15,274百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出 3.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析)          総事業費：          本事業は、昭和51年の事業着手より32年間を要しており、この間に工事単価や用地単価などの建設物価が上昇している。          工期：          「かじめん橋」の架け替え工事について架橋位置や取付道路の形状検討に期間を要したため、2年間の遅延となった。</p> <p>(3)事業実施による環境の変化 <span style="float:right;">〈 (有) ・ 無 〉</span></p> <p>①自然環境への影響          ・現地の石を河床材料として使用し、横断形に変化を持たせるよう配慮した。</p> <p>②生活・居住環境等への影響          ・なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）          ・なし</p> <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <span style="float:right;">〈 有 ・ (無) 〉</span></p> <p>①社会経済状況の変化          ・なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化          ・なし</p> <p>③事業環境等の変化          ・なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,524百万円	1,679百万円	工 期	S51～H17	S51～H19	経済効率性	費用	3,901百万円	便益	15,274百万円	B/C	未算出 3.91
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																								
危険度	16点→設定せず ※	8点																								
想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	75百万円→設定せず ※	431百万円																								
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																								
総事業費	1,524百万円	1,679百万円																								
工 期	S51～H17	S51～H19																								
経済効率性	費用	3,901百万円																								
	便益	15,274百万円																								
	B/C	未算出 3.91																								

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</span></p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり事業が完了したため洪水被害の防止という主要目標が達成され、自然環境への影響について、今後大きな変化が生じる可能性は低いと思われることから、今後の事後評価の必要性はないと考えている。</li> </ul> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時期：        年度</li> <li>・方法：</li> </ul>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川事業の場合、沿川や流域の開発状況等を勘案して浸水被害等を防止するように効果的な区間の設定を行うため、事業区間が長くなる傾向がある。また、梅雨・台風シーズン以外の渇水期に工事を実施しなければならないこと等により、事業期間が長期化し、工事単価や用地単価などの変動により総事業費が増大する傾向にある。</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業では、全体事業を概ね10年程度で完了できる工区に分割して事業を実施してきたが、今後は、その工区毎に事業評価を受けることにより、予算管理や時間管理を徹底していきたい。</li> </ul>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>

### 3. 添付資料シート (1)



### 3. 添付資料シート（2）

#### ■航空写真

省 略

■事業着手前・完成後の工事写真

写真① 岩手橋の上流約1.35km左岸側護岸整備の様子(小屋敷第二発電所前)

事業着手前

完成後



写真② 岩手橋の上流約1.70km付近より下流の様子

事業着手前

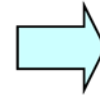
完成後



■事業着手前・完成後の工事写真

写真③ 岩手橋の上流約1.80km付近より下流の様子

事業着手前



完成後



事業着手前

写真④ 岩手橋の上流約1.80km付近より上流の様子

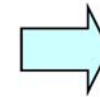


完成後



事業着手前

写真⑤ 岩手橋の上流約2.0km付近右岸側護岸整備の様子



完成後

